

# 正誤表

『理工系 微分積分学』

(荒井正治 著)

第3版第13刷用

2025年3月10日記載

	誤	正
p.89 下ℓ.9	$< R_n(h) <$	$< R_n(1) <$
p.110 下ℓ.9	(1) $x = x', y = g(x', y')$ とおいて	(1) $x = x', y = g(x')$ とおいて
p.159 脚注	<sup>16</sup> p.154 の脚注	<sup>17</sup> p.154 の脚注
p.175 ℓ.1	(2) $\Gamma(t+1) = t\Gamma(t)$	(2) $\Gamma(t+1) = t\Gamma(t)$ .
p.175 ℓ.2	(3) $n$ を自然数とすると $\Gamma(n) = (n-1)!$	(3) $n$ を自然数とすると $\Gamma(n) = (n-1)!$ .
p.229 脚注	<sup>20</sup> rot は rotaion の略であり,	<sup>20</sup> rot は rotation の略であり,
p.231 下ℓ.9	$\nabla \cdot \mathbf{f}(x, y)$	$\nabla \cdot \mathbf{f}(x, y, z)$
p.234 (B)1.	$(a \neq b, b > 0)$	$( a  \neq b, b > 0)$
p.237 ℓ.6, 9	$\sum_{n=1}^n$ ** (6 か所)	$\sum_{k=1}^n$ ** (6 か所)
p.275 下ℓ.7	$f_{xy} = -\frac{1}{xy(\log x)^2}$	$f_{xy} = f_{yx} = -\frac{1}{xy(\log x)^2}$

「テイラー展開」という語を、定義することなく、式(2.5.1)や定理3.4.2の式の右辺の意味で使っているが、その語はp.257で定義した意味にだけ使うべきである。故に、以下の訂正を行う。

	誤	正
p.89 下ℓ.4	テイラー展開	テイラーの定理
p.125 下ℓ.4	$x = a + h, y = b + k$ とおき、 $f(x, y)$ を点 $(a, b)$ のまわりでテイラー展開し、	定理3.4.2を使う。その式において左辺の $a + h, b + k$ をそれぞれ $x, y$ とおく。右辺の
p.128 ℓ.3	テイラー展開を	テイラーの定理を適用し、その

	誤	正
p.208 下 l.3	をテイラー展開し,	にテイラーの定理を適用し,